

町指定文化財(天然記念物)

おがち  
「小勝のかや」

指定年月日/平成元年三月一五日  
所在地/城里町小勝 管理・所有者/個人



▲県道から望む小勝のかや

カヤは、東北地方南部から鹿児島県屋久島にかけての山地に広く分布する、イチイ科カヤ属の常緑針葉樹です。雌雄異株で、花期は四〜五月、実は翌年の秋に熟し食用や漢方薬、さらには相撲の土俵の鎮め物として洗米や昆布などと共に用いられています。

材質は緻密で光沢があり、耐久性に優れ、加工しやすいため、最高級の基盤や将棋盤、浴室用具などに使用されます。

町指定文化財の「小勝のかや」



▲年月を物語る巨大な幹

は、県道五一号線沿いの老人ホーム敷地内に生育する、幹回り五・六五メートル、樹高約二〇メートルの巨樹です。樹勢は旺盛で、青々とした枝葉を大空に広げ、樹下には紡錘形の堅果を大量に落下させています。

樹齢はおよそ三〇〇年とされていますので、江戸時代以降の世の中の変化と人々の営みを黙々と見守り続けてきたのでしょう。戦前には、水戸二連隊が行軍する際の目印であり、樹下は兵士の休憩の場所であったとも伝えられています。

解説文/町文化財保護審議会長小山映一  
問合せ 教育委員会事務局  
☎029-288-3135

俳句

直しても又首傾げ水中花 鯉淵 寿美恵  
那須高原方縁を行くボニー馬車 綿引 英子  
厚切りの鰹のたたき家族膳 森 静江  
紫陽花はまだ淡き色夫忌日 今瀬 多代美  
縫ひ上げて孫のはんてん夏祭 仲田 まちゑ  
北国や林檎の花の真つ盛り 飯村 昭子

この街の風と育ちて夏帽子 竹内 幸子  
ロケットの如く噴水ふき上がり 瀬谷 博子  
学会の大藤棚やデイ昼餉 岩下 金司  
日の道や葵かたむく峡の空 田口 勝元  
吹流し三代の御代を生きし我 寺門 孝子

川柳

茨城の知名度アップが大相撲 富田 多蔵  
いつからかよいいしょの掛け声 癖になる 車田 綾子  
これからは茨城なまりいんじやね 飯村 孝一  
みどりなる城里の山よそナンバー 川原 清  
お年寄り病院ロビーはいこいの場 栗林 一郎

文芸しろさと

短歌

はらはらと桜花舞散る下に 杉山 みちこ  
るて夫の一生を想い出せり 渡辺 千紗子  
大森 久子  
高根山万朶の桜咲き満ちて 枝 不美  
花の吹雪は霊山を鎮むる 青柳 京子  
雪降りて一日炬燵に籠る吾 島 愛子  
テレビに見入る歌謡曲など 信田 育子  
所 美恵子  
枯草の庭の黄の花水仙に友 坪井 きよ子  
をいたみし心なごめり 山形 式妙

家族みな平穏無事の有がたし 杉山 みちこ  
これが母へのプレゼントかな 朱印帳に心鎮めて書き印す 大日如来の文字黒々と 渡辺 千紗子  
苛立ちて毒舌止まぬ人のあり 老いてもわれはかくはなるまじ 枝 不美  
鉢植の白百合の花母の日に五 十路越えたる息子等よりとどく 島 愛子  
八十路すぎ短歌やりたく来て 見ればみんな知人で心安らぐ 信田 育子  
はなれ住む女孫の事を思う日 々教員生活なれたらどうか 坪井 きよ子

髪切って「若くなったね」と美容師のことばに帰路の足どり軽し 萩谷 登喜子  
岩走る竜頭の滝に際やかに 三ツ葉つつじは傾きて咲く いわば 富田 佐智子  
ネモフィラは丘一面を埋め尽くす 圧巻引き込む親子の笑顔 菌部 光子  
天高く運動会の花火の音晴れの踊りに心も騒ぐ 富田 欽子

